

Mizuho Bangkok Daily Market Report

Dated of 2022/04/26

Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	34.14	0.17
JPY/THB	0.2664	0.0022
USD/JPY	128.14	-0.36
EUR/THB	36.57	-0.06
EUR/USD	1.0713	-0.0077
USD/CNH	6.572	0.046
SGD/THB	24.84	0.07
AUD/THB	24.51	-0.10
USD/INR	76.69	0.21
USD Index	101.75	0.53

Bond

	Close	CHANGE
5Y (THB)	2.314	0.081
10Y (THB)	2.876	0.035
5Y (USD)	2.859	-0.072
10Y (USD)	2.820	-0.079

Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	1,893.2	-37.8
WTI (Oil)	98.54	-3.53
Copper	9,769.0	-341.0

Stock

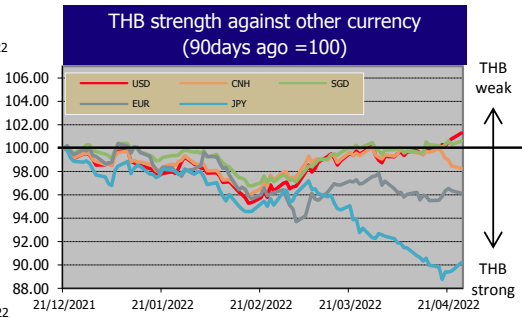
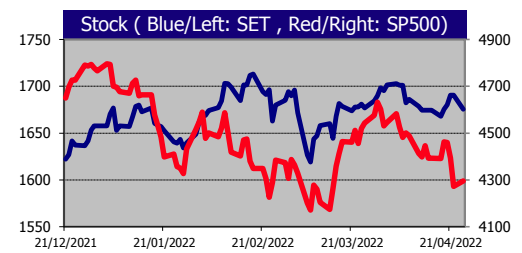
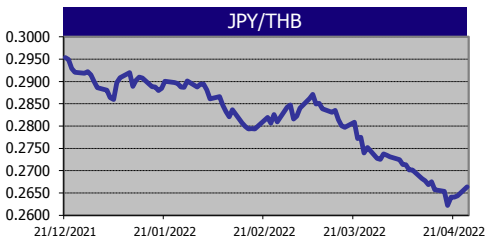
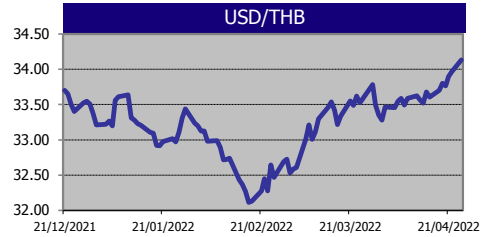
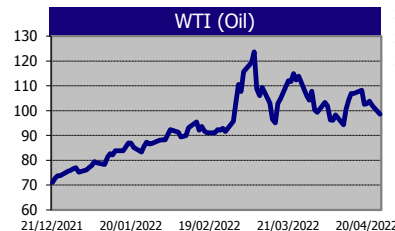
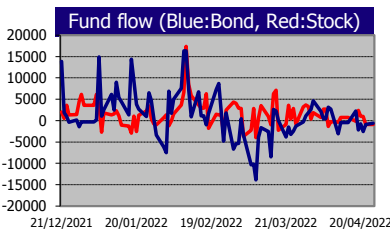
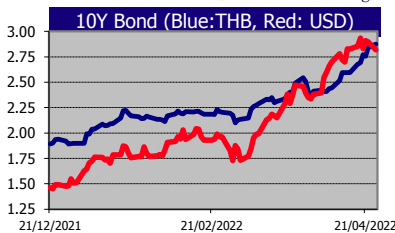
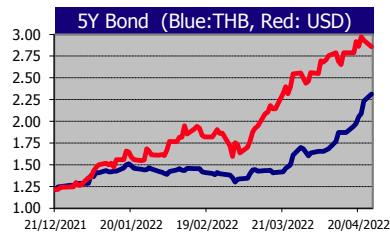
	Close	CHANGE
SET (TH)	1,675.33	-15.26
NIKKEI (JP)	26,590.78	-514.48
DOW (US)	34,049.46	238.06
S&P500 (US)	4,296.12	24.34
SHCOMP (CN)	2,928.51	-158.41
DAX(GER)	13,924.17	-217.92

Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	(928)	0.0
Bond net flow	(594)	324.5

*compared with previous day

(Source: Bloomberg)



Yesterday's market summary

●ドルパーツ

・昨日のドルパーツは年初来高値を更新。バンコク時間は34.00近辺でオープン。前週末に欧米株式市場が大きく下落し、週明けの中国では上海に加えて北京でもロックダウンを検討との報道が入り、中国経済の減速懸念およびサプライチェーンの混乱が意識される展開となり、全世界的にリスクオフムード強まった。上海株式市場は前日比▲5%安となり、人民元も大きく売られる展開からアジア通貨や資源国通貨が対ドルで大きく売られ、ドルパーツも心理的節目となっていた34.00をブレイクし、一時34.15近辺まで上昇。リスクオフの展開から米金利は大きく下落するも、経済先行き懸念からアジア通貨安が継続し、ドルパーツは年初来高値となる34.15近辺での高値引けとなった。

●ドル円その他

・昨日のドル円は下落。週明けの東京時間は128.60円近辺でオープン。中国の経済先行き懸念が意識される中、コモディティやリスク資産が大きく売られ、5月FOMC前に急騰していた米債も大きく買われ、米金利は各種タームで15bp近く下落したことで、相関性が高まっていたドル円も大きく下落。リスク回避の展開に加え、クロス円の下落幅も大きく、ドル円は一時127.55円近辺まで下落。ドル円は引けに向けて押し目買いから上昇に転じ、結局128.15円近辺でクローズした。

Bangkok Dealer's Eye

週明けのマーケットはアジア時間に大きくリスクオフムードが強まる展開となり、中国の経済先行き懸念から各種リスク資産は大きく下落する展開となりました。中国株が大きく下落し、人民元についても下落が一段と進むと、アジア通貨や資源国通貨が大きく売られる展開となり、タイパーツについても足並みをそろえるように下落。ドルパーツについては、2020年の高値をブレイクし、年初来高値となる34.15近辺まで上昇する展開となりました。目先の注目材料としては、5月FOMCが最大の注目点となりますが、世界第2位のGDPを誇る中国が引続きゼロコロナ政策を継続し、上海のみならず北京でもロックダウン観測を検討との報道が見られたことで、中国発のサプライチェーンの混乱および商品市況の悪化が意識される展開となり、コモディティ価格やリスク資産は中国動向に強く反応する展開となっています。米国ではエネルギー価格の急騰を懸念としたインフレ高進を防ぐべく、FRBはインフレを抑える目的で急速に利上げを進めようとしています。仮に中国のロックダウンが一段と拡大した場合には、商品市況の悪化を背景として、エネルギー価格が大きく崩れることが予想され、景気後退からインフレ観測が後退する可能性もあり、非常に方向感を見定めにいく状況となっております。米国の量的緩和マネーの金額規模はすさまじく、今や9兆ドル近辺まで膨らんでいるわけですが、FOMCと中国動向によっては、この巨額マネーの方向感が真反対となるため、各種マーケットでは値幅を伴ったボラタイルな展開が継続しています。本邦では今週末からGWIに突入し、マーケットの流動性低下が予想される中で、5月FOMCへ突入するため、更なる大波乱の展開も意識される状況です。現在は投資も事業も過度なリスクを取らず、まずは目先の波乱に備えることが吉といえる状況と思われる、事業法人の為替ヘッジについても、イベント前に淡々と消化しておくことをお勧めしたいところです。(檜)

The report is prepared for the sole purpose of information only. It is not an invitation to trade. The writer's view expressed herein would not be substituted for the exercise of rational judgement by the recipients.